

精神科訪問看護とはどのようなサービスか

20 世紀後半より、欧米諸国の精神医療保健福祉では精神科患者の入院は短期間にとどまり、退院し住み慣れた地域でサービスを受けることが主流となっています。日本でも近年、統合失調症をはじめとする精神疾患をもつ人は、精神科訪問看護を利用するようになりまし。これによって、入院せず長い期間地域で暮らせることがわかってきています。ところが、訪問看護サービスが、どのような患者にどのようなケアを提供しているのかが把握されていません。そこで、全国の訪問看護ステーションを対象にその実態を明らかにすることを目的として調査を実施しました。

調査に協力してくれたのは、全国 322 の訪問看護ステーションでした。統合失調症患者 422 名に提供されたケアの内容を、訪問看護師に記録してもらいました。その記録を分析したところ、対象者の特性とサービスの内容の特徴を明らかにすることができました。

研究の結果から、対象者の支援は、「独居者援助型」「重症者への家族援助型」「他援助がある人へのモニタリング重視型」「重症者への本人援助型」の 4 つに分類できることがわかりました。精神科訪問看護では、同居者がいるかどうか、社会機能がどれくらいか、訪問看護以外の援助者がいるかどうかによって、異なる一定パターンの支援が行われていることが明らかとなりました。

精神科訪問看護には、一般的な訪問看護で行われるケア（血圧などの確認、医療装具の交換、排泄処理など手を使った看護）とは異なるケアがあります。会話を中心として、その人や家族の回復を支えていく支援です。今回の調査によって、どのような対象者に、どのようなケアがどれくらい実施されたのかが明らかになりました。これから精神科の訪問看護を始めようとする看護師や、訪問看護を利用するご本人・ご家族に、この結果を使っただければと思います。精神科訪問看護がさらに普及し、より多くの患者が住み慣れた家でその人らしく暮らせるように、活用してもらえることを願っています。